

令和7年度 第2回 平塚市図書館協議会 会議記録（要旨）

開催日時	令和7年11月14日（金曜日）14時30分～16時			
開催場所	平塚市中央図書館3階ホール			
出席者	委員 事務局	西田 洋平 会長 宮田 篤 委員 石川 社会教育部長 仁和 奉仕担当長 渡邊 管理担当主査	森谷 芳浩 副会長 小林 浩代 委員 藤田 中央図書館長 西海 奉仕担当主管	蝦名 今日子 委員 林 秀樹 委員 熱田 管理担当長 関山 管理担当主査
傍聴人	2名			

2 議題

（1）報告事項

- ア 令和7年度 平塚市子ども読書活動推進プロジェクト
 - （ア）第1回「読書感想文の書き方講座」
 - （イ）第2回「クイズ王が出題 図書館でクイズに挑戦」
- イ 令和7年度 文化ゾーン3館コラボ ウォークラリー「しらさぎをさがせ！」
- ウ 令和7年度 一日図書館員
- エ 平塚市・東海大学交流提携40周年記念事業
 - （ア）東海大生による平塚市図書館資料の紹介POP及びサービス活用案の展示
 - オ TOKAIグローカルフェスタ2025「1日ミニ図書館with平塚市中央図書館」
 - カ THE OUTLET SHONAN HIRATSUKAと平塚市図書館コラボイベント
 - キ 読書は未来へのゴール2025湘南ベルマーレ×平塚市図書館

事務局から資料の説明

【会長】	文化ゾーン3館コラボについては、1館ずつ、「しらさぎ」を探して報告する形式だったのか。それとも3館すべて回る形式だったのか。
【事務局】	この企画は、参加者が図書館、美術館、博物館の3館を巡り、それぞれの施設で1文字ずつキーワードを探し出し、合計3文字の答えを完成させる形式で実施した。したがって、プレゼント入手するには、3館すべてを訪問してもらう必要がある。なお、プレゼントの引換館は期間内で替わり、3館それぞれでオリジナル缶バッジを用意した。
【副会長】	東海大学とのデジタルアーカイブの活用方法に関する研究について、どのような活用方法が提案されたのか。
【会長】	例えば、昔の写真と現在の状況を比較することや、災害マップと合わせて見るといったテーマの提案があった。
【委員】	TOKAIグローカルフェスタの参加人数が、令和5年度の500人程度から、今年度は200人程度減ってしまった点について、何か原因があるのか。
【事務局】	今年度は雨だったため、イベント自体への来場者数が減少した影響がある。

（2）「これからの平塚市中央図書館運営のあり方」（中間報告）

- ・目指す方向1「多様な利用者をカバーする図書館サービス網の構築」

事務局から資料の説明

【会長】	中長期目標にある「中央図書館と地区図書館の役割の見直し」について、現時点でのどのような位置づけと考えているのか。
【事務局】	<p>中央図書館は、市内図書館の中心として、地区図書館を支援するバックアップ機能を担っている。その主な役割は、電子図書館サービスの推進、専門的・調査研究に対応する高度なレファレンスサービスの提供、および郷土資料の体系的な収集・保存である。</p> <p>一方、地区図書館は、地域住民の生活に最も密着した情報拠点として機能する。地域のニーズに基づき、住民の日常的な課題解決に焦点を当てた資料を提供することで、人々の暮らしに一番寄り添う役割を果たしている。</p>
【副会長】	<p>駅の図書室について、継続の検討が進められているとの報告があった。全国的に書店が減少し、市民が日常的に本に触れる機会が減少している。街の多様な場所に本に触れられる機会を設けることは重要であり、駅の図書室の設置はその役割を担うものとして評価できる。よって、継続の方向で進めてもらいたい。</p> <p>また、開館時間の延長には、職員の負担増や人件費の増加といった懸念もある。重要なのは、市民の読書環境の充実という観点から、本に触れられる機会を街中に広げていく方向へ推進することである。この方向性は目標とは矛盾する側面もあるが、市民の読書推進という観点から、引き続き検討を進めるべきである。</p>
【事務局】	予約図書の受取場所を地区公民館6か所に設置した。平塚市には公民館が25館あるという特色を活かし、まずはこの6公民館を中心に地域にある公民館図書室を充実させたい。団体貸出やリサイクル本の提供等により、公民館図書室で新しい本が入る魅力的な書架になるように進めている。この動きをさらに進め、地域で本に触れられる場所の充実を図りたい。
【事務局】	駅の図書室は、南図書館休館の代替施設として開設した。多くの方に活用されているという実績を踏まえ、施設の継続を視野に入れて検討している。
【委員】	限られた予算や人員の中で、これだけの実績を上げていることは極めて評価できる。テレビ番組で図書館と書店との協働（コラボレーション）を特集していた事例を見たことがある。平塚市内では書店が減少傾向にあり、かつては図書館と書店が競合関係になる可能性も指摘されていた。しかし、互いに補完し合うことで読書文化を浸透させる方向へと変化しているようだ。平塚市として、現在、書店との具体的な連携企画はあるのか。
【事務局】	<p>絵本作家等を招いた子ども向けのプロジェクトや講座の会場で書店組合が出張販売を実施している。</p> <p>講演終了後に講師の著作購入者を対象とした講師のサイン会を実施することで、読書推進と地域書店への貢献を図っている。</p>
【事務局】	駅の図書室を設置する際に、事前にラスカ内のサクラ書店と協議を行った経緯がある。サクラ書店からは、「市民が本に触れる機会が増えることは非常に良いことだ」と前向きな意見を受けて開設に至った。今後も協働の可能性を継続的に探っていく。
【事務局】	先に報告したベルマーレとの企画は、直接書店が関わったものではない。しかし、書店側から「ぜひうちの一角でも紹介したい」という申し出があり、連携という形に発展した。今後もこうした連携を積極的に進めていく。

【委員】	<p>一昨年、移動図書館（あおぞら号）の廃止について、継続を求めて意見を述べたことがある。特に、市内西側の小学校では、児童が図書館まで足を運ぶのが難しく、あおぞら号が来てくれることで、本との出会いを提供していた。その廃止は残念であったが、その後、代替事業を実施してもらえるという話を聞き、安堵している。</p> <p>また、中学生については、活字離れが進み、本を読まない生徒が多い一方で、読書好きな生徒は年間100～300冊という多読ぶりであり、学校図書室の本だけでは足りないという声も聞く。</p> <p>一方、学校図書室では、司書教諭などが新しい本を補充しても、利用されずに余ってしまう本も出ており、それらを図書館や公民館に引き取ってもらえるかどうか、相談をしたこともある。</p> <p>学校図書室、公民館、図書館が連携し、新しい本を循環的に回せるようなシステムの構築は、有効であると考える。また、市が目指す方向2の「ニーズに合わせた図書館整備」の一環として、公民館での代替サービスを実施してもらえることは非常にありがたい。さらに、「ジ アウトレット」に本に触れる場所ができたことも、新しい試みとして評価できる。今後も、市民がより多くの本に触れる機会を持てるよう、サービスの充実に期待する。</p>
【事務局】	小学校へのあおぞら号の定期巡回廃止に伴い、今後は2週間に1回決まった時間に行くのではなく、学校から要望を受けて出動する単発的な形ではあるが、児童や生徒に本を届けられるように新しい形の支援を継続していきたい。
【委員】	学校の本は毎年購入するため入れ替えが必要だが、大量に廃棄することが多く、もったいない。公費であるため他に転用できないのか。
【事務局】	図書館では、イベント等でもリサイクル本として提供することはある。
【委員】	学校の除籍本をリサイクルできるよう連携ができたら良いと考えているが、連携は特にないのか。
【事務局】	学校側でそのような困りごとがある場合は、図書館から何か助言ができるか、意見交換等で把握していきたい。
【委員】	子どもたちは新しい本や人気のある本を好むため、取り合いになることもある。古くなった本はすぐに除籍できないため、クラスの学級文庫に回す。学級文庫でも古い本は最終的に除籍していく流れが多い。除籍したものは廃棄するしかない。それが大量になることもあり、もったいないと感じる。
【委員】	資料5ページの「りんごの棚」にある布えほんは、貸し出しができない。他の利用者へ紹介する分には良いが、本は家庭で親しむものであるため、貸し出しの方向は検討されていないのか。
【事務局】	布えほんは非常に高価であるため、年に1～2冊程度しか購入できず、また小さな部品等があるため紛失・破損の恐れがある。そのため、現在は閲覧のみとしている。今後、購入を重ねて数が増えてきたら、一部を貸し出し可能とすることは検討できるかもしれない。現状はまだ3冊しかないため、多くの方に長く見ていただくために館内閲覧という形を取っている。
【委員】	他の図書館では、布えほんなどを作るボランティア団体が図書館に入って製作や貸し出し、修理まで行っている例もあるがどうか。
【事務局】	昨年度布えほん講座（手作り体験）を実施し、回数を重ねている。参加者

が増えていき、自分たちでサークルを作つて製作してみようという動きに育つってくれることを期待しているところである。

・目指す方向2「時代のニーズに合わせた図書館への転換」

事務局から資料の説明

【委員】	<p>駅の図書室の環境が生徒や保護者たちにも好評で、引き続き利用したいという声がある。南図書館再開後も継続を検討してほしい。</p> <p>また、視聴覚ライブラリーについて、自己評価で「遅延」との話があつた。社会科の授業で平塚の空襲の写真などをデジタル化し、生徒一人ひとりに配られているタブレットで利用できるシステムが構築されており、ありがたい。動画も同様に、貴重な資料がデジタル化され、誰でも配信を受け取れるようなシステムを構築してほしい。</p>
【事務局】	<p>駅の図書室の継続については、前向きに検討していく。多くの需要があつて良かったと感じる。南図書館が改修を終えてリニューアルしても、引き継ぎ需要が高いと思われるため、そうした点も踏まえて対応したい。</p>
【事務局】	<p>デジタルアーカイブについて、学校現場や博物館、平和活動を所管する部署とも連携し、空襲の焼夷弾の写真や体験者の証言動画も加えて、学校現場で使いやすい形に工夫して掲載した。今後も様々なコンテンツを学校で活用してもらいたいと考えており、こういうものを授業で使いたいというリクエストを把握したいので、ぜひ寄せてほしい。</p>
【委員】	<p>電子図書館サービスについて、小中学生全員がタブレットを持ち、アプリで利用できるようになったことはありがたい。しかし、人気の本や流行っている本が少ないと感じる。初めは皆読んでいたが、継続利用されていない状況がある。コンテンツの更新や入れ替え、調べ学習のニーズに合わせた本の追加を隨時行うことは可能か。</p>
【事務局】	<p>電子書籍の選定は、図書館職員だけでなく、教育指導課指導主事の意見も聞きながら行っている。しかし、電子書籍化されている本自体が、実際に出版されている本全体のうちごく一部であるという制約がある。人気のあるものを全て揃えるのは難しい。今年度も購入を予定しており、引き続き学校教育部と連携しながら、出来る限り子どもたちや学校のニーズを反映したコンテンツを揃えていきたい。</p>
【委員】	<p>電子図書館やICTの活用は、今後の図書館のソフト面を担う鍵であり、その一層の充実が必要である。まず、現在購入している児童書読み放題パックについて、そのボリューム（収録冊数や、過去10年ほどの物語・本のジャンル構成など）の詳細を知りたい。</p> <p>また、著作権の切れた青空文庫の書籍については、無料で読めるようになれるのかどうか。青空文庫に加えて、有料であっても最近の作品を電子化し、利用者が読めるよう進めの計画はあるか。人気書籍（例：本屋大賞受賞作など）は、現物での予約待ちが半年から1年に及ぶこともあり、集中購入しても対応が難しい。そのため、費用が高額になる可能性はあっても、電子化されれば利用者にとって大きなメリットがある。</p> <p>視聴覚ライブラリーの資料媒体変換（DVDなど）についても質問する。将来的には、DVDなどの資料をクラウドにアップロードし、Amazonプライムの</p>

	<p>のようなストリーミング形式で視聴できるようにすることで、DVD 現物の配架をなくす展望はあるのか。これにより、物理的なスペースやメンテナンスの負担が軽減されると考える。</p>
【事務局】	<p>児童書読み放題パックは、令和5年度から毎年5~6パック程度購入している。パックの種類は10冊程度のものから50冊セットのもの等様々。主な内容は、学習漫画や絵本、また短い読み物が多数収録された本などであり、学校現場のニーズを聞きながら選定を行っている。</p> <p>青空文庫については、現在すでに電子図書館と連携済みであり、利用者は電子図書館を経由して閲覧できる。</p> <p>一方、文学賞を受賞した本や人気の本を電子書籍として導入するには、人気の本が電子化されていない等、難しい面がある。また、電子書籍でも読み放題はなく1人ずつしか読めないことから、結果として長い順番待ちが発生する場合があるのも現状である。できる限り多くの利用者に喜ばれる本を揃えられるよう、今後も選定に努めていく方針である。</p> <p>視聴覚ライブラリーの映像資料をクラウドで活用して見ることができるようになるには、制作会社との著作権の問題をクリアする必要がありかなり難しい。現在16mmフィルムをDVDに媒体変換したのは、平塚市が作成した一部の映像資料のみである。一方で、DVDも約10年で劣化していくという話もある。クラウド上のデータ化については、今後の著作権の絡みや技術、法改正の状況を見ながら検討したい。</p>
・目指す方向3 「豊かな学びを支援する図書館」	
【委員】	<p>小学校、中学校でボランティアをしている人が仕事などのため減ってきており、協働するのが難しい状況にある。中学校区ごとの協議会の運営も難しい。協議会自体もなくなりそうなところもある。推進している内容が実現できなくなる可能性もあるが、市としてどう考えているのか。</p>
【事務局】	<p>地域での学校図書ボランティアの継続が厳しく、活動できる人が限られているという課題は、多くの地域で抱えていると認識している。しかし、読み聞かせや図書室の飾りつけ、本の修繕などで「学校図書室と関わりたい」というニーズは無くならないのではと考えている。そうした方々の意欲を活かし、「どういう形であれば活動しやすくなるのか」を継続して一緒に考えていくことが、今後の取り組みになるとを考えている。</p>
【委員】	<p>コロナの影響以降で、活動や交流に関する考え方方が変化してしまっている。学校に来ること自体が難しいという状況がある。交流を目的としてボランティアに入る人もいるが、特に若い世代は交流しようとしなくなっている傾向がある。</p>
【事務局】	<p>高齢化している現役ボランティアと若い保護者との世代間ギャップといった問題もある。地域には読み聞かせをしたいという潜在的なニーズを持つ方もいると考えられるため、意欲のある方が活動できる環境を整えていくことが今後必要だと考える。</p>
【委員】	<p>本校では司書教諭と学校司書が選定し本を購入しているが、学校司書が休日・土日などに都内や県内横浜で開催される出版社の本の紹介イベントを行っている。</p> <p>司書たちの声として、「中央図書館は本を選ぶ時にどうしているのか」、</p>

	「そういうイベントを平塚に呼んでくれないか」という要望がある。図書館から声を掛けてもらい、平塚で実施できれば司書が集まると思う。司書たちの支援になるようなことを検討してもらいたい。
【事務局】	出版社に相談は可能かもしれないが、平塚まで来ていただけるのか、場所、時期など、様々な検討事項がある。
【会長】	特定の出版社に来てもらう、あるいは本屋に行くという形だけでなく、選書をどう進めていくかという話であるなら、方法はあるかもしれない。
【事務局】	選書の進め方については、公共図書館の職員がある程度伝えることはできる。しかし、公共図書館は一般利用者のために選定しており、学校図書室の選書とはジャンルが異なり、選び方のコツも違ってくる。 学校教育部で意見交換の機会を設ければ、各学校がどのような選書をしているか情報共有ができる、ヒントになるかもしれない。また、その場で本を選べる機会がないかという点については情報として預かりたい。
【委員】	駅の図書室は駅の動線上にあるためよく利用している。コンパクトながら、地域や旅に関係する本、掲示物、パンフレットなどが充実している。狭いレイアウトの中で司書が工夫を凝らした成果であろう。本が少ないからこそ見やすく、色々な本があることに気付きやすい点が良いと考える。
【委員】	中央図書館2階にあるおすすめ本の展示は、非常に効果的である。本の表紙を貼り、その横に本のレシートが配置されている点も非常に良い。 このレシートがあれば、次に何を借りるか参考にできるだけでなく、今借りられない本でも後から予約できる。利用者の利便性が大きく向上する。こうした仕組みは、子どもたちも利用できるなら、本を借りやすくなる。
【事務局】	駅の図書室について高い評価をいただき感謝したい。日々、どうしたら皆さんに手に取ってもらえるかを担当者が頭を悩ませている。限られたスペースの中で、居場所、本の量、事務スペースの確保が必要である。居心地の良い空間となるように、今後も工夫していく。

・全体をとおしての意見等

【委員】	中央図書館の改修工事について、建物内の内装はどうなるのか。
【事務局】	現在、設計の途中である。公表できる時期が来たら周知をしたい。
【委員】	中央図書館の1階のような子どもたちの居場所となるスペースが多くあると良い。駅の図書室では、あまり図書館に来ない子どもたちも利用しているようで、そういった空間を大切にしてほしい。
【事務局】	中央図書館の改修工事は、耐震改修工事であり、基本的に居室構造を変えるわけではなく、居室の形態は維持される。しかし、利用者の居場所スペースは必要だと考えており、レイアウト検討を含め、利用しやすい図書館を目指して作業を進めている。

3 その他

資料4の今後の開催スケジュールを説明。

閉会